第３回スマートサービスによるWell-beingの改善方策検討WG　議事概要

日　時：令和6年1月19日（金）13:00～15:00
場　所　：新東京ビル７階 706-A

WG の論点に対する委員からの主な意見は、以下のとおり。

【都市局が目指すあるべき姿について】

- 都市局が目指すあるべき姿、自治体に求められるあるべき姿を明確にすることで、スマートシティ全体の方向性を示すべきではないか。自治体としてスマートシティの構想づくりに悩んでいる団体が多く、事業立案・構想からの支援も必要だと感じている。

- 行政リソースの重複を減らすことを考えると、スマートサービスをゼロから作るものだけでなく、例えば、自治体が共通に使えるサービス開発も重要ではないか。

【構想・ビジョンのあり方について】

- スマートシティの構想ビジョンを策定するのには数年単位で時間がかかる場合もあり、支援の期間や内容について検討が必要ではないか。

- 導入するスマートサービスの内容ではなく、地域におけるビジョンや都市計画・都市政策との関係性等を評価して支援すべきだと考える。

- 都市局で支援するスマートシティのテーマとして、市民へのサービスだけに偏るのではなく、立地適正化の実現など都市計画分野での活用も重要だと考える。

【データの利活用とデータサイクルについて】

- スマートサービスを通じて取得するデータを、次の施策に繋げるサイクルが必要である。取得したデータセットを別目的の次の施策に生かすことが出来れば、スマートシティの幅も拡がる。１つの目的・課題ごとにデータサイクルを設計することは、今後持続しにくいのではないか。

- スマートサービスを通じて取得するデータを活用して、サービスを高度化していくサイクルを構築することができれば、「都市経営の高度化」に繋がるのではないか。

- 取得したデータを公表できない自治体の事例をよく聞く。データを公表して分析することで新たな活用方法を見いだせる可能性もあるので、成功事例の展開などを通じて

自治体内外の壁をなくし、データを共有し活用できる仕組みづくりを行うのもスマートシティの１つの形ではないか。

- 自治体における現状として、単一分野のデータ活用では課題解決が難しくなってきている。複数分野のデータ活用もテーマとしてはどうか。

- 取得したデータの活用方法がわからない自治体への支援も必要ではないか。特に、異なる分野で取得したデータについては、活用にあたっての合意形成が難しくなるため、そこをどう支援するのかも重要ではないか。

- 自治体が保有するデータの種類だけでも公開することで、複数分野におけるデータ利活用の検討に繋がるのではないか。これらの項目を調査設計時などに公開することで、過去・類似調査と比較できるなど検討の幅も広がるのではないか。様々なデータを使い回せる仕組みが重要。

- サービス導入後のデータ活用も含めた広い視点・枠組みでスマートシティ施策を展開していくことが重要ではないか。また、先導的なプロジェクトを支援し前例を作っていくことも有効ではないか。

【国の支援のあり方について】

- 国、自治体、民間企業、大学等は共同でスマートシティを検討できることが望ましく、「国の支援」というよりも多様なステークフォルダが「共創」のように共に考えていく取組であってほしい。